



その他の質問
・まちづくり会館の名称について

防犯隊員の制服については、隊員全員に制服は支給しているが、捜索活動などの際に着用する活動服は全員に支給できていない。今後は活動服を見直し、「勝山市防犯隊」と明記されたビブス等を支給し、夏場はＴシャツ等の上に、冬場は防寒着の上に着用し、季節に合わせて快適に活動できるように検討していく。

学校の対応策としては、学校に来るのが楽しいと思える学校づくりや相談しやすい雰囲気づくりの「未然防止」、休み始めたらすぐに担任やスクールカウンセラーによる面談や家庭訪問、教員と保護者による相談会など、チームで対応する「初期対応」、欠席が続く場合には医療や福祉など外部機関と連携して支援を行う「自立支援」の3点を意識して取り組んでいる。



その他の質問

・県立恐竜博物館の臨時休館対策と、観光事業について ・子育て支援日本一をめざす取り組みについて ・全国で始まっている高齢者等への「補聴器購入助成」を勝山市でも直ちに実施すべき

② 8月に教育長は「市民の大多数が反対している状況ではない」、大多数とは「国語辞典ではほとんど全部との説明で、そういう線と考えていきたい」と述べ、これだと市民の過半数が反対しても尊重せず、国民主権や物事を民主的に決めることを否定することになるが、市長も同じ考えなのか、勝山では子どもたち

に教育長の説明のように教え

②質問の趣旨は、民主主義の進め方ということだと思つが、一般的に物事を進めていく上で、賛成や反対の数を見ることはあるが、様々な意見がある中で議論をしながら進めていくのが民主主義の基本と考える。必ずしも数が全てというふうに学校では教えていない。学校では、少数の意見を踏まえつつ、様々な観点から総合的に判断して最適解を見つけていくことを指導していただいていると思つている。